



こよみ

コールセンターからの、小さなよみもの



2022年
10月

2022年10月31日

Vol
165

長期の資産形成における、為替との向き合い方

2022年に入り、為替相場の変動が大きくなっています。とくに3月以降、急速に円安・米ドル高が進行し、10月21日の外国為替市場において、1米ドル151円90銭台に下落し、32年ぶりの安値を更新する場面もありました。

急激な円安を警戒した政府・日銀は、9月22日(2.8兆円)、10月21日(5.5兆円規模)と、二度にわたり、過去最大規模の為替介入を行なったことがさまざまなメディアなどで報じられ、大きな話題になりました。

今回は、為替介入について整理したうえで、あらためて長期の資産形成における、為替との向き合い方についてお話したいと思います。

■米ドル(対円)の推移(2022年1月初～2022年10月27日、日次)



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成
※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目録見書)をご覧ください。



こよみ

コールセンターからの、小さなよみもの



2022年
10月

為替介入とは

急激に為替相場が変動した場合、相場に影響を与えることを目的に、為替介入が行なわれることがあります。たとえば、円安に歯止めをかけるという目的であれば、円を買い・米ドルを売るという取引を行なうというわけです。とはいえ、基本的に政府・日銀は、為替介入に慎重だといわれています。実際に、2011年11月以来、10年以上も為替介入という手段をとることはありませんでした。

さらに、円安・米ドル高を是正するという目的の為替介入に限れば、1998年6月以降、20年以上も行なわれてきませんでした。為替介入は、必ずしも相手国と利害関係が一致するわけではないことに加え、たとえば円買い・米ドル売りという為替介入をする場合、外貨準備として保有している米ドルを市場で売ってしまうと、それ以上の手立てがなくなってしまうことから、ある意味で限界があることなどがその理由として挙げられています。ですから、多くの場合、介入を示唆することで市場をけん制する口先介入という手段がとられることが多いようです。

■米ドル(対円)の推移(1995年1月初～2022年10月27日、日次)



※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成 ※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

為替介入の主な実施方法



単独介入	1国が単独で実施
協調介入	複数の国の利害や政治的判断が一致したときに、協力して実施
覆面介入	外国為替市場の参加者には知らせずに実施
口先介入	介入を示唆する発言を繰り返すが実際には介入しない

各種報道等をもとに日興アセットマネジメントが作成

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



こよみ

コールセンターからの、小さなよみもの



2022年
10月

長期の資産形成における、為替との向き合い方とは

以前のこよみでもご紹介させていただいたように、大きく変動する為替相場を受けて、「だいぶ円安も進んだし、一旦売却しておくべきではないか」、「為替ヘッジありと為替ヘッジなし、どちらがいいの?」といったご質問が、コールセンターには多く寄せられています。(こちらからバックナンバーをご覧ください)

投資信託を活用し長期の資産形成に臨む私たちにとって、

- 為替だけを見た投資判断はせず、保有する投資信託が投資対象としている有価証券が変わらず魅力的かどうかという視点を持つこと
- 為替ヘッジのメリット・デメリットを正しく理解し、ご自身の資産形成における目的と照らし合わせたうえで選択すること

という2点が、為替と向き合ううえでの大事なポイントだといえます。



nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00